2011年（平成23年）７月29日（金）

中日新聞

部員８人、「目標できた！」

飯南高吹奏楽部 46年ぶり県コンクール出場

２日の本番へ猛練習

本番を間近に控え、練習に熱が入る部員たち＝松阪市の飯南高校で

松阪市の飯南高校吹奏楽部が、四十六年ぶりに県吹奏楽コンクールに出場する。わずか八人の部員たちは、「目標ができた」と目を輝かす。人数が少ない分、一人一人の音が全体に与える影響は大きく、八月二日の本番を前に、猛練習で演奏に磨きを掛けている。

部員は現在、三年生一人、二年生四人、一年生三人。同部では毎年、文化祭や依頼のあった地域のイベントなどで練習の成果を披露してきた。だが、生徒たちには「コンクールに出ようという意識がなかった」といい、長年、コンクールと縁がなかった。

きっかけは今春、新採用の堀健太郎社会科教諭（三七）が、同校に赴任してきたこと。学生時代に吹奏楽部に所属し、関西フィルハーモニー管弦楽団の事務局に四年半勤めていた経歴から同部の顧問に就任した。コンクールには何度も出場した経験があり、「主体的に演奏機会をつくることで技術も向上し、励みにもなる」と話す。

「コンクールに出てみないか」。堀教諭に言われ、部員で話し合って、六月下旬の出場申し込みの締め切りぎりぎりに決定した。部長の三年磯田麻人君（一七）は「一人一人に責任感が出て、精神的に強くなってきた」と受け止める。練習にも熱がこもり、夏休みに入ってからもほぼ毎日登校して一日中、自分たちの音作りに励んでいる。

演奏するのは、堀教諭が二十年前に演奏したことのある曲で、自分の過去の経験を思い出しながら指導している。

部員は八人中七人が初心者だが、楽器は六パート。一人一人の音が即座に全体の演奏に影響する。「失敗したらすぐに分かるが、一人の成長が全体の向上につながる」と堀教諭は期待する。

本番を間近に控え、「悔いの残らない演奏をしたい」と部員たち。堀教諭は「コンクールが楽しい経験となり、来年以降も積極的に出場できる雰囲気をつくりたい」と熱意を込めた。

（杉原麻央）